

環境調査結果のお知らせ

令和6年5月23日8時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なシャットネラ属が最高で92 cells/ mL、麻痺性貝毒原因種であるアレキサンドリウム属が最高で6 cells/mL確認されました。また、各地点の底層が貧酸素状態となっていますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ	珪藻	アレキサンドリウム
	(m)	(°C)		(mg/L)	属		属
A 鳴無 (-) 【08:51】	0	23.0	27.5	9.4	12	-	0
	2	23.3	30.0	9.2	58	-	2
	5	21.0	30.6	4.8	21	-	0
	底層 8	20.6	30.8	1.8	92	-	0
B 中学校前 (-) 【09:00】	0	23.2	27.9	9.0	0	37,900	0
	2	23.0	29.9	9.0	10	14,000	0
	5	21.1	30.6	5.7	7	120	6
	10	20.4	30.9	3.2	7	20	0
	底層 11	20.3	30.9	2.3	14	60	0
C 目ノクソ (-) 【09:14】	0	23.0	27.6	8.8	0	-	-
	2	22.7	30.0	8.7	0	-	-
	5	21.4	30.6	6.4	0	-	-
	10	20.9	31.0	4.7	0	-	-
	底層 14	20.5	31.1	3.1	0	-	-
D 光松 (-) 【09:25】	0	23.4	28.0	8.5	0	14,700	-
	2	22.3	30.0	8.9	0	11,000	-
	5	21.5	30.7	6.8	0	650	-
	10	21.1	31.2	5.5	0	200	-
	底層 16	20.2	31.2	1.9	0	40	-



A: 鳴無

B: 中学校前

C: 目ノクソ

D: 光松

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。